

令和2年度 コンピテンシー(学修到達目標)に
関する自己評価アンケート調査結果報告書(抜粋)

令和3年5月

浜松医科大学 IR 室（教学部門）

調査概要

1. 調査の目的

令和2年（2020年度）医学科6年次生を対象に、コンピテンシー（学修到達目標）における自己評価アンケートを得て、教育プログラムにおける問題点や改善点を把握する。

2. アンケート実施方法等の概要

- 調査対象 令和2年度（2020年度）医学科6年次生 117名
- 調査方法 留置調査法（自記式）
医師国家試験受験手続の説明会時に質問紙を配布し、後日、他の書類とともに提出を依頼した。
- 調査期間 令和2年（2020）年10月26日
- 回収枚数 115枚（回収率 98.3%）
- 有効回答数 111枚（有効回答率 94.9%）
4件の回答は無効と取り扱った。理由は以下のとおり
・ 必須項目の一部が未回答（4件）

3. その他

調査対象者は、平成24年に策定された旧ディプロマ・ポリシー（以下、DPと呼ぶ）、旧カリキュラム・ポリシー（以下、CPと呼ぶ）による教育を受けている。このため平成29年度に策定された現在のDPを基に到達度を測ることは、適切とは言えない点が生じるが、下記の2点を主な理由に評価に用いた。

- ・ 現行のDPが旧DPを基に策定されており、内容に大きな違いは見られないこと。
- ・ 教育プログラムの内容そのものに大きな変更がないこと。

本調査はカリキュラム評価委員会が原案を企画し、IR室が調査を実施した。また、本調査は実施から4年目となるため、過年度のデータも併せて傾向を見ることとした。

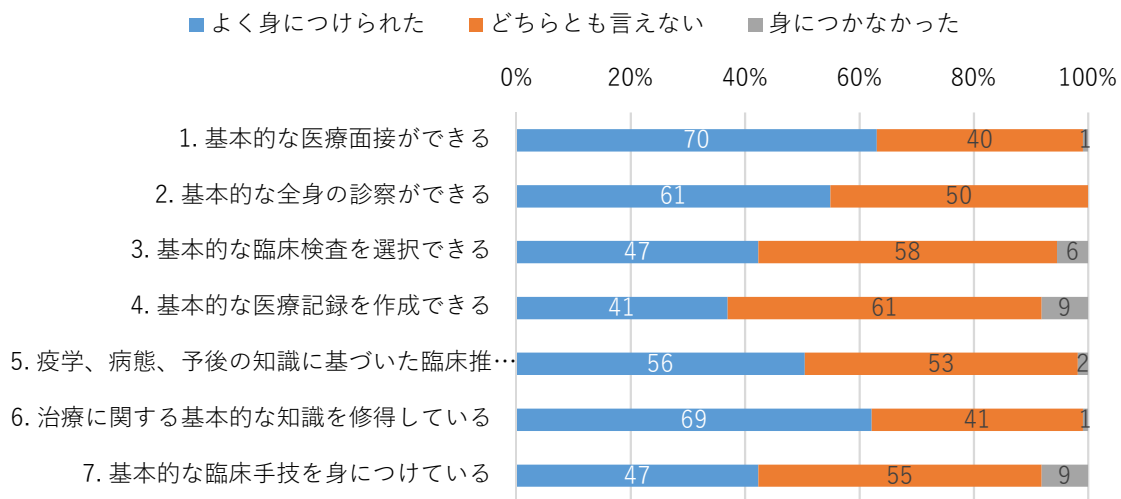
ディプロマ・ポリシーごとの集計結果

1. 専門知識と技能

最も高い結果が示されたのは「1. 基本的な医療面接ができる」であり、これは昨年と同じである。ただし、2017年度の調査開始以降、「よく身につけられた」と回答した割合は最も低く、2020年度はコロナ禍において臨床実習後 OSCE が中止となるなど、対面で医療面接を学ぶ機会が例年より少なかったことが影響している可能性があるため、今後、コロナ禍における医療面接の学修方法について検討が必要と思われる。

また、「4. 医療記録の作成」は例年到達度、満足度ともに低いという傾向がみられ、最も低かった2017年度ほどではないが、前年度よりさらに低下しており、引き続き電子カルテ学生記載システムの導入を進めていく必要がある（P4, 図1-1, P5, 図1-2）。

1. 専門知識と技能（到達度）



1. 専門知識と技能（満足度）

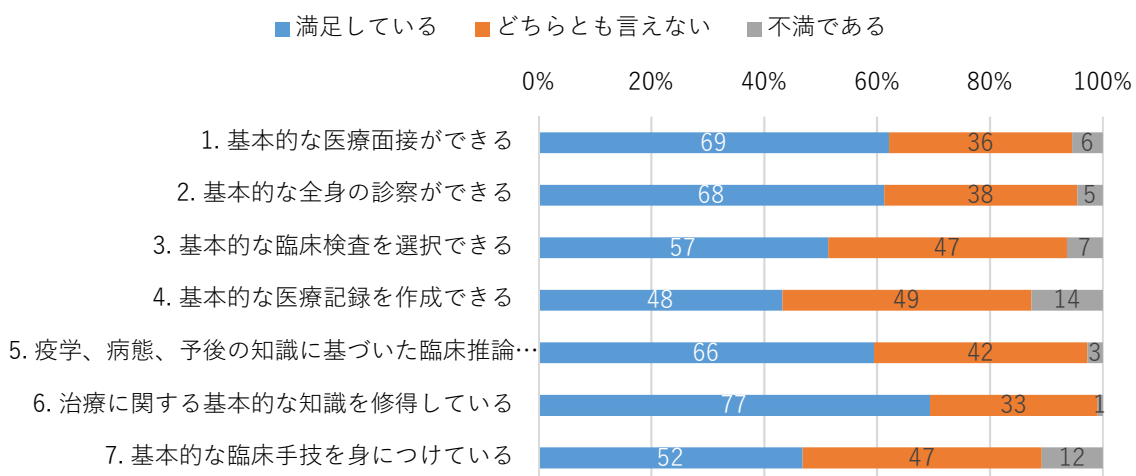
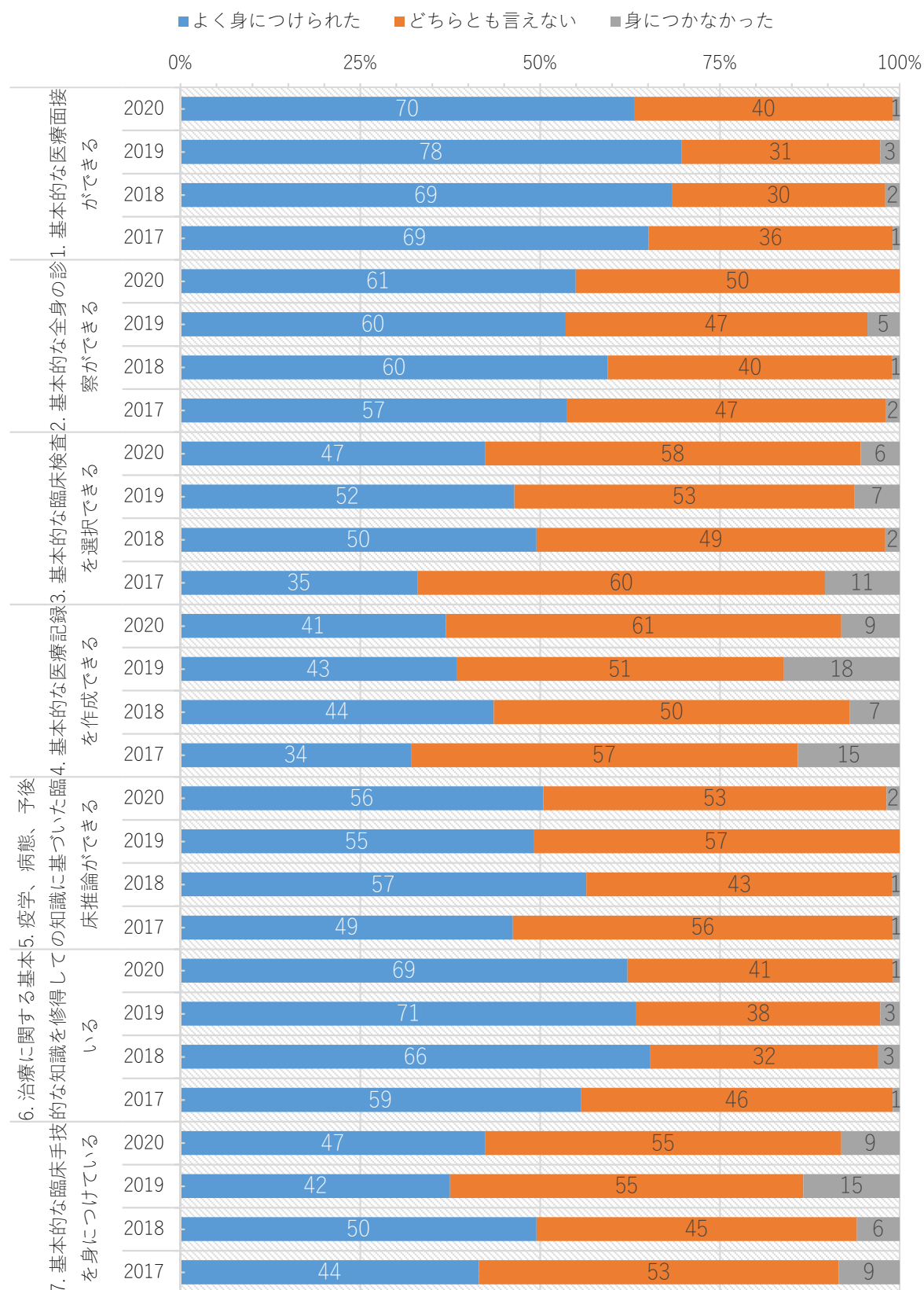
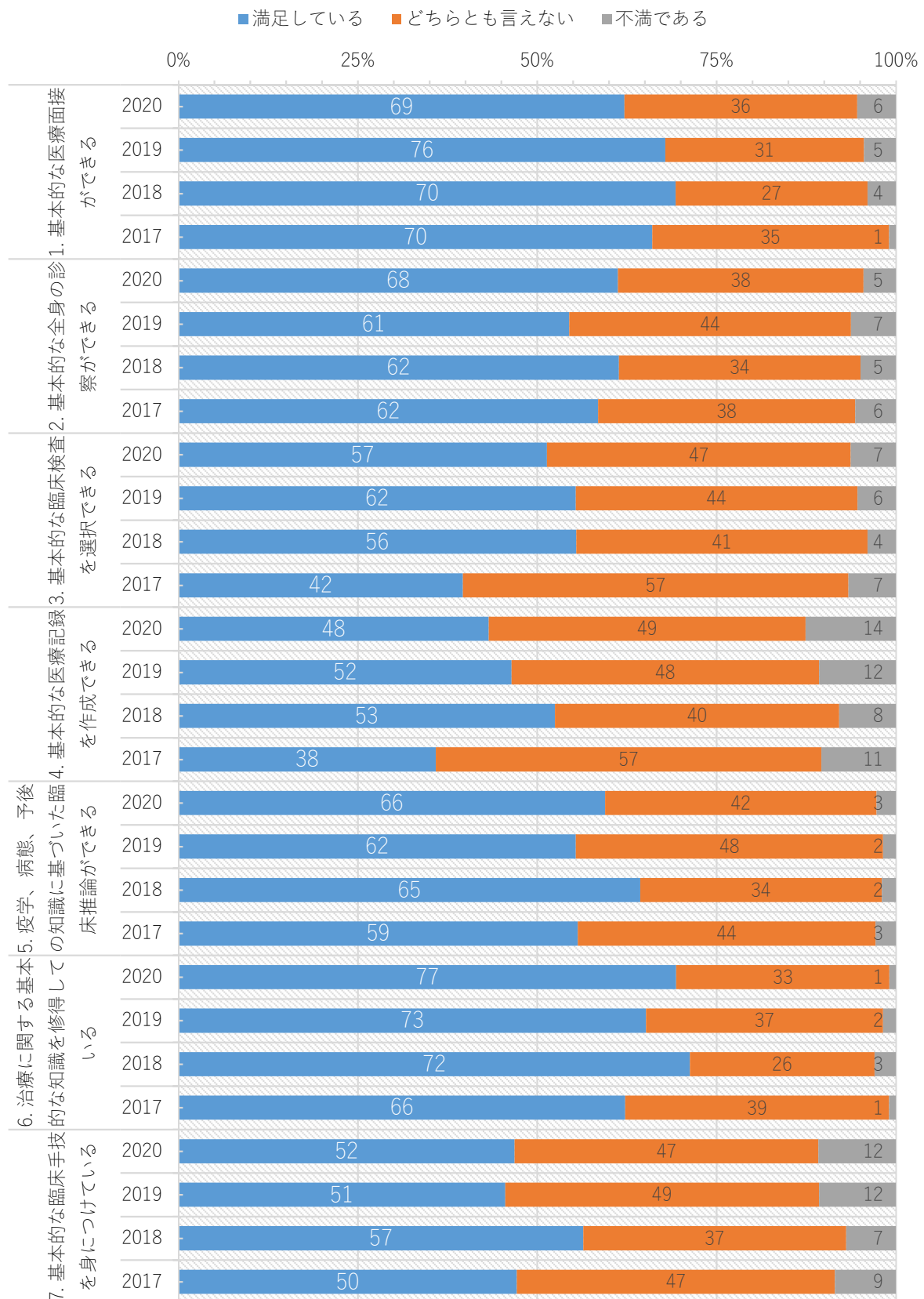


図 1-1 専門知識と技能（到達度）の4か年比較



回答者数 2020年度：111 / 2019年度：112 / 2018年度：101 / 2017年度：106人

図 1-2 専門知識と技能（満足度）の4 か年比較

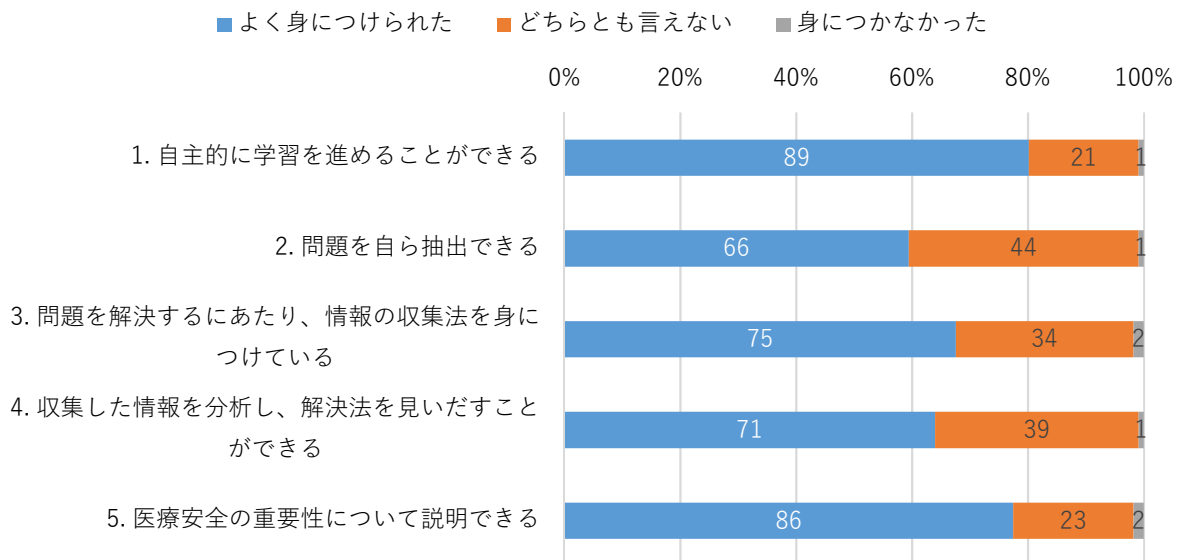


回答者数 2020 年度：111 / 2019 年度：112 / 2018 年度：101 / 2017 年度：106 人

2. 自律的学修能力と応用能力

いずれのコンピテンシーにおいても、到達度、満足度ともに概ね高い数値が示されたと考えられる。過去4か年を比較しても、到達度、満足度で50%を下回った年度は見られない（P7, 図 2-1、P8, 図 2-2）

2. 自律的学修能力と応用能力（到達度）



2. 自律的学修能力と応用能力（満足度）

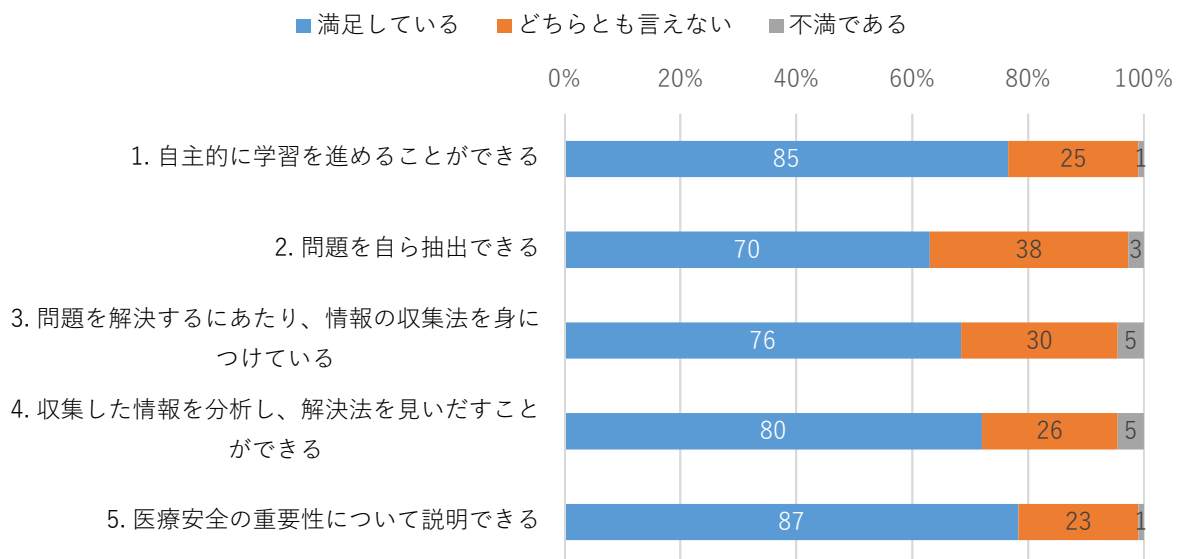
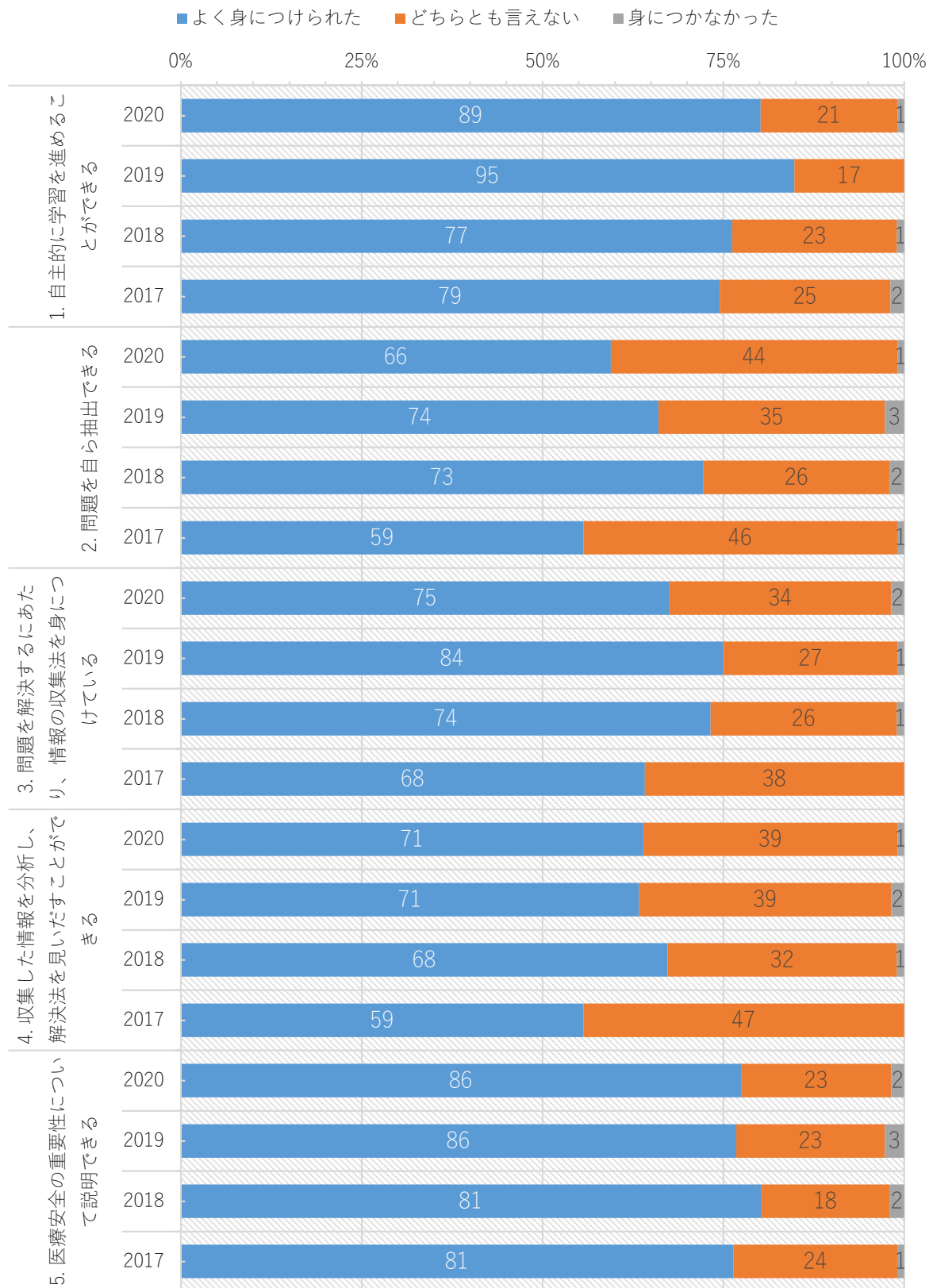
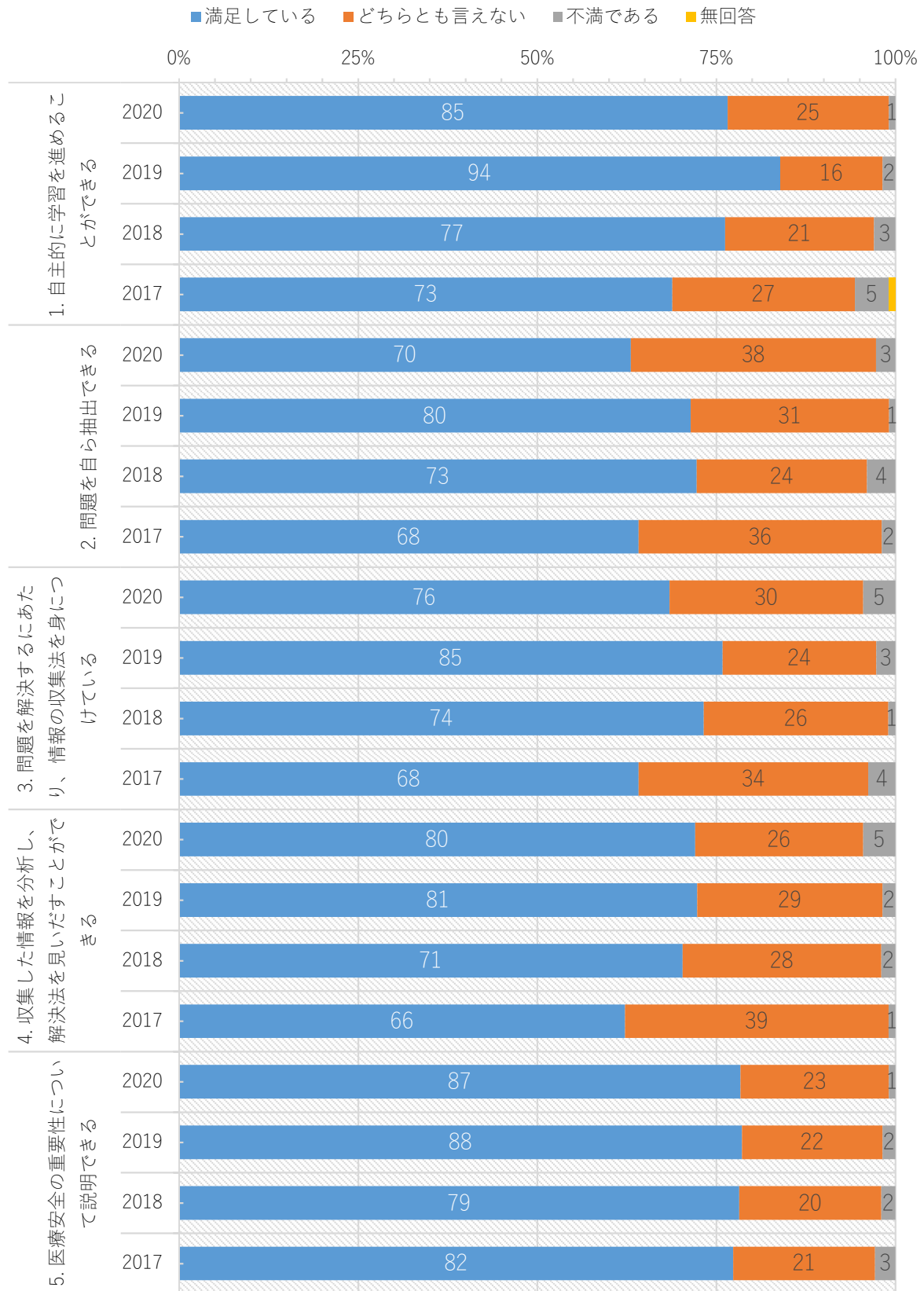


図 2 - 1 自律的学修能力と応用能力（到達度）4 か年比較



回答者数 2020 年度：111 / 2019 年度：112 / 2018 年度：101 / 2017 年度：106 人

図 2 - 2 自律的学修能力と応用能力（満足度）4 か年比較

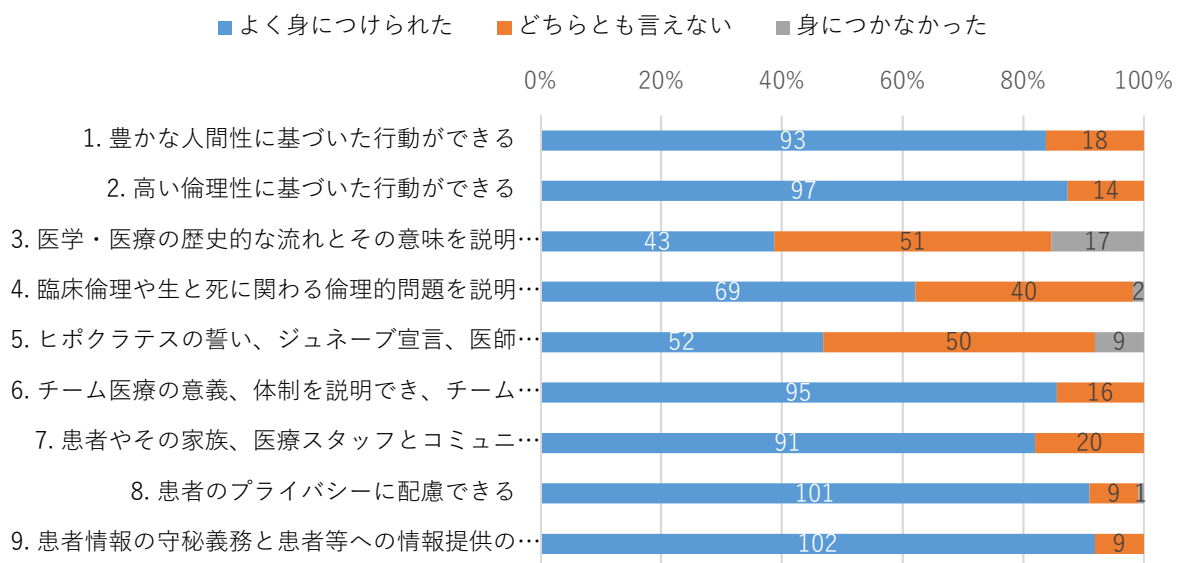


回答者数 2020 年度：111 / 2019 年度：112 / 2018 年度：101 / 2017 年度：106 人

3. 豊かな人間性と高い倫理観

到達度、満足度ともに「3. 医学・医療の歴史的な流れとその意味を説明できる」、「5. ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、医師憲章等医療の倫理に関する規範を説明できる」で、低い数値が示された。これは昨年と、ほぼ同じ傾向であり、過去4年間を通して同様の傾向が見られる（P10, 図3-1、P11, 図3-2）

3. 豊かな人間性と高い倫理観（到達度）



3. 豊かな人間性と高い倫理観（満足度）

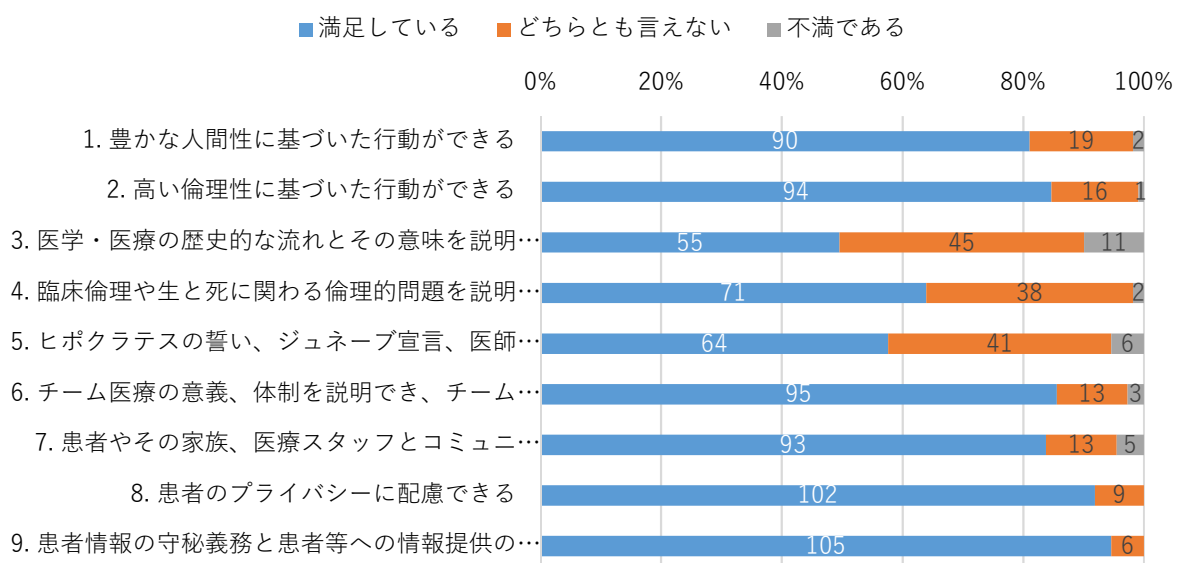
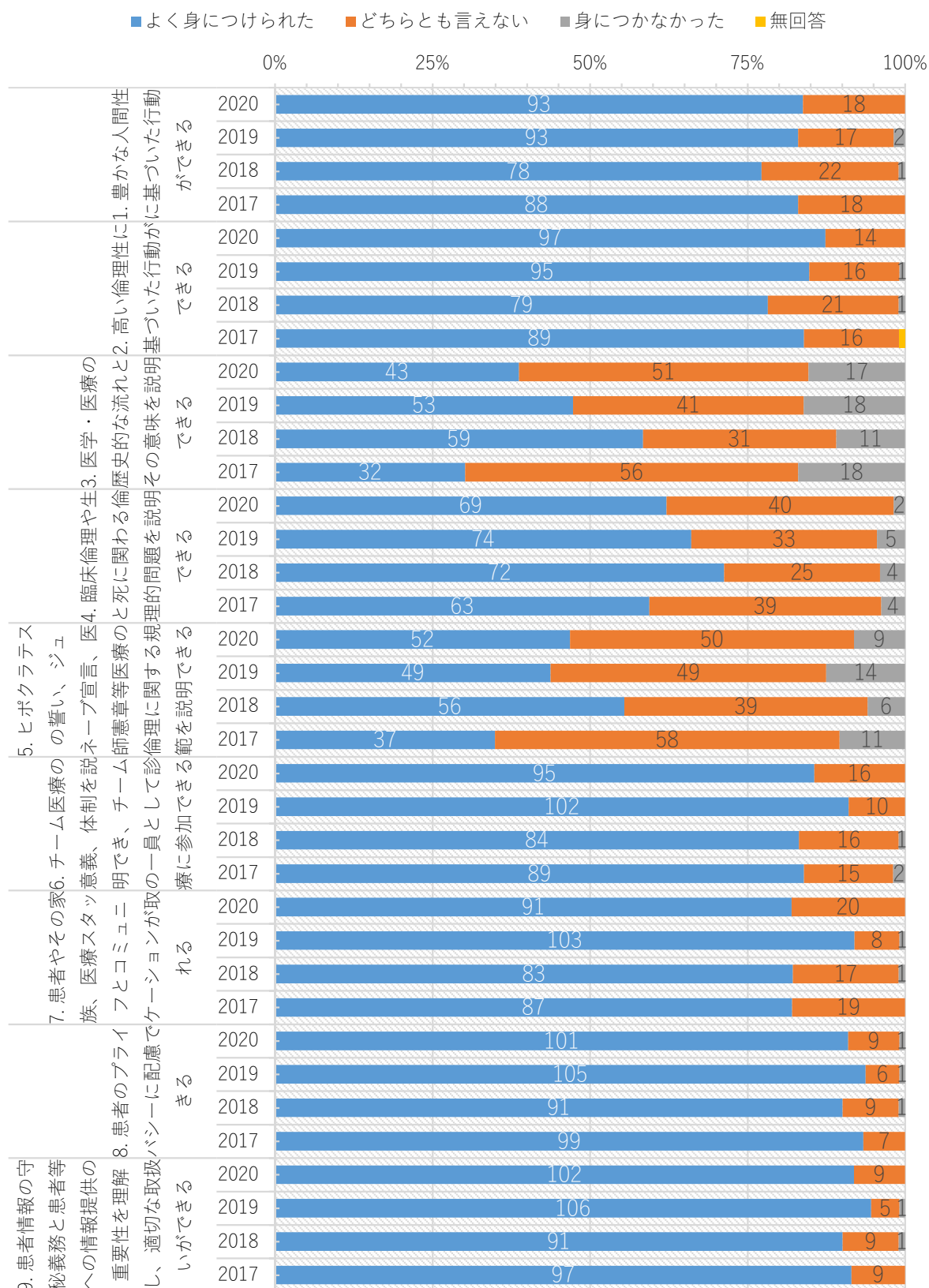
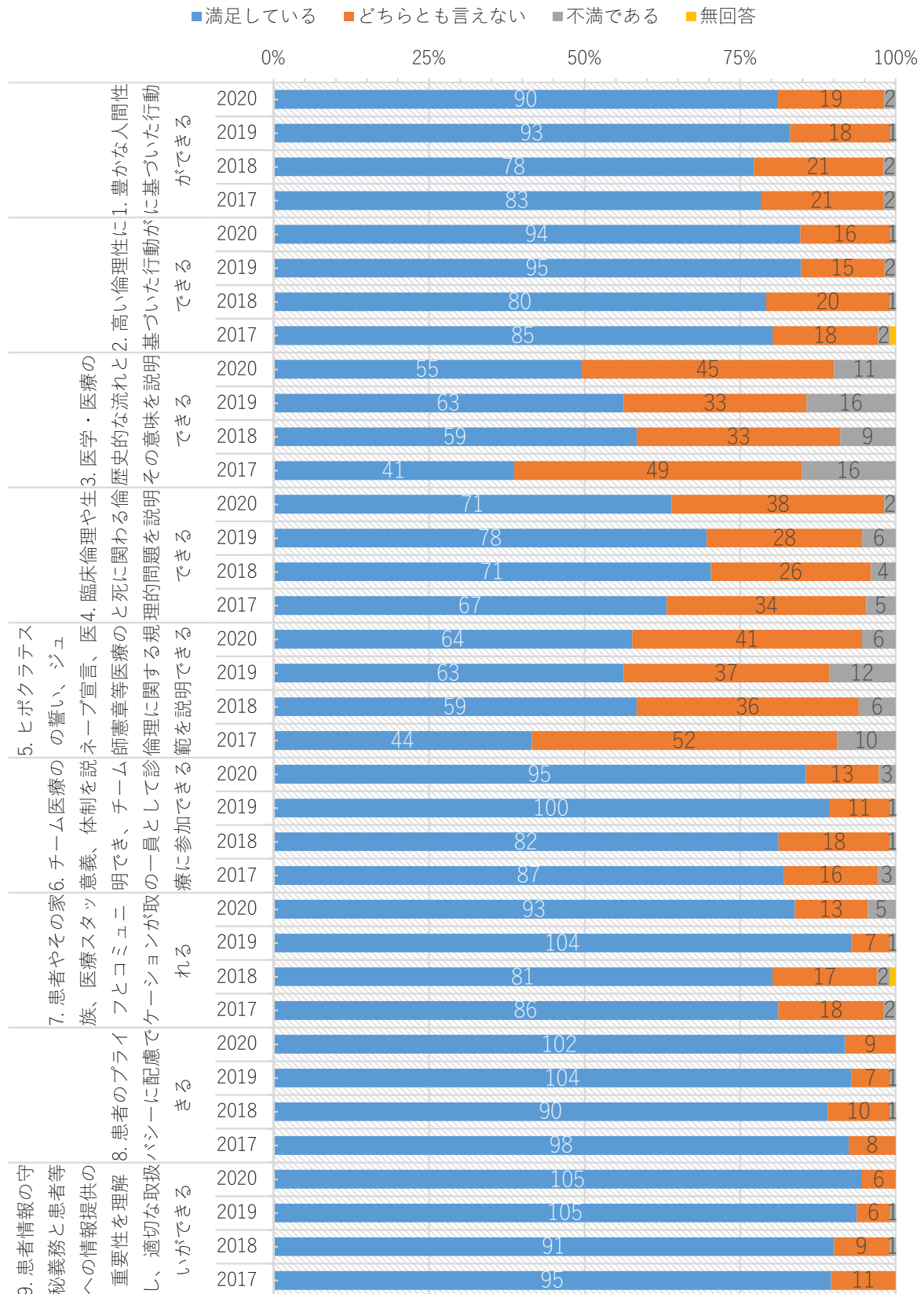


図 3 - 1 豊かな人間性と高い倫理観（到達度） 4 か年比較



回答者数 2020 年度：111 / 2019 年度：112 / 2018 年度：101 / 2017 年度：106 人

図 3 - 2 豊かな人間性と高い倫理観（満足度） 4 か年比較

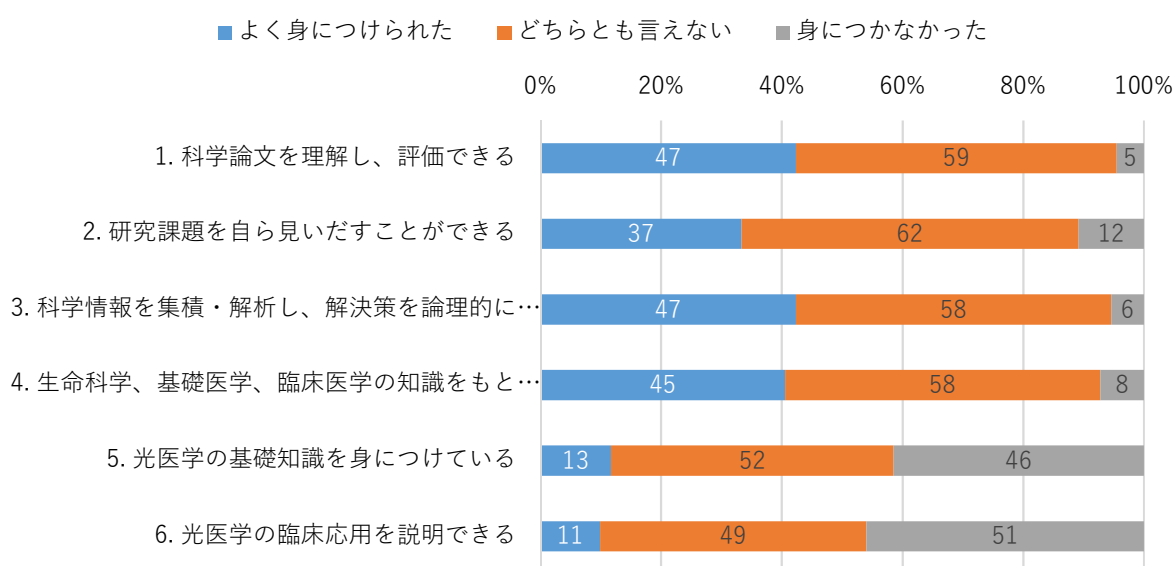


回答者数 2020 年度：111 / 2019 年度：112 / 2018 年度：101 / 2017 年度：106 人

4. 科学的探究心

昨年度と同様に「5. 光医学の基礎知識を身につけている」、「6. 光医学の臨床応用を説明できる」の2項目において、低い結果が示されている。2019年度の4年次生より「光医学の基礎と臨床応用」など光医学の特色あるカリキュラムをさらに充実させており、今回の調査対象学年までは当該講義を受講していないため、次年度以降の結果について注視する必要がある。また、このDPは他と比較して、到達度、満足度ともに概して低めの傾向がみられる（P13, 図4-1、P14, 図4-2）。

4. 科学的探究心（到達度）



4. 科学的探究心（満足度）

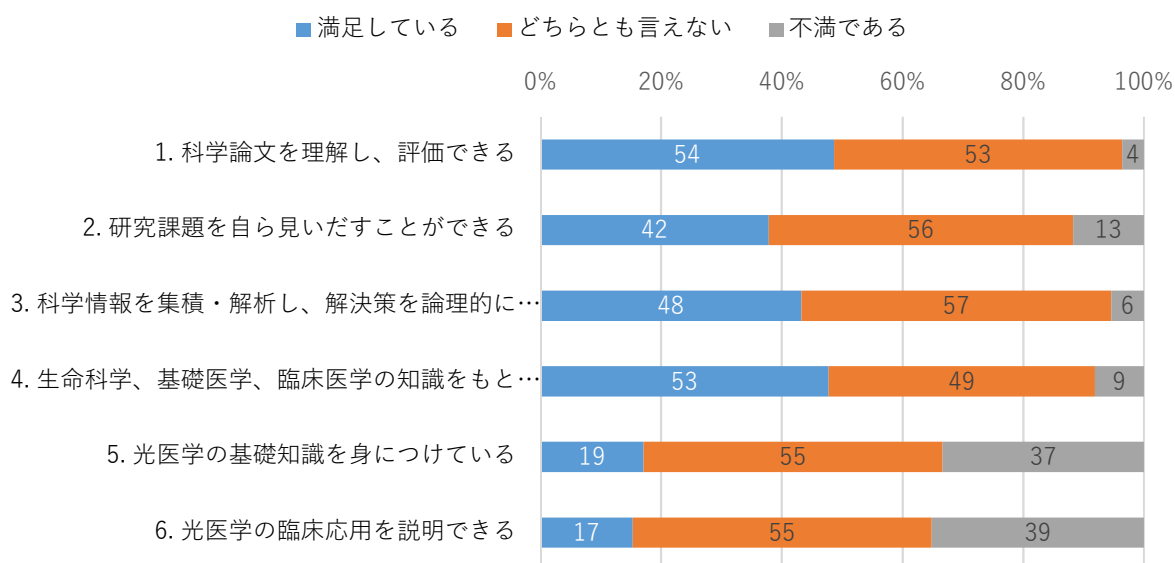
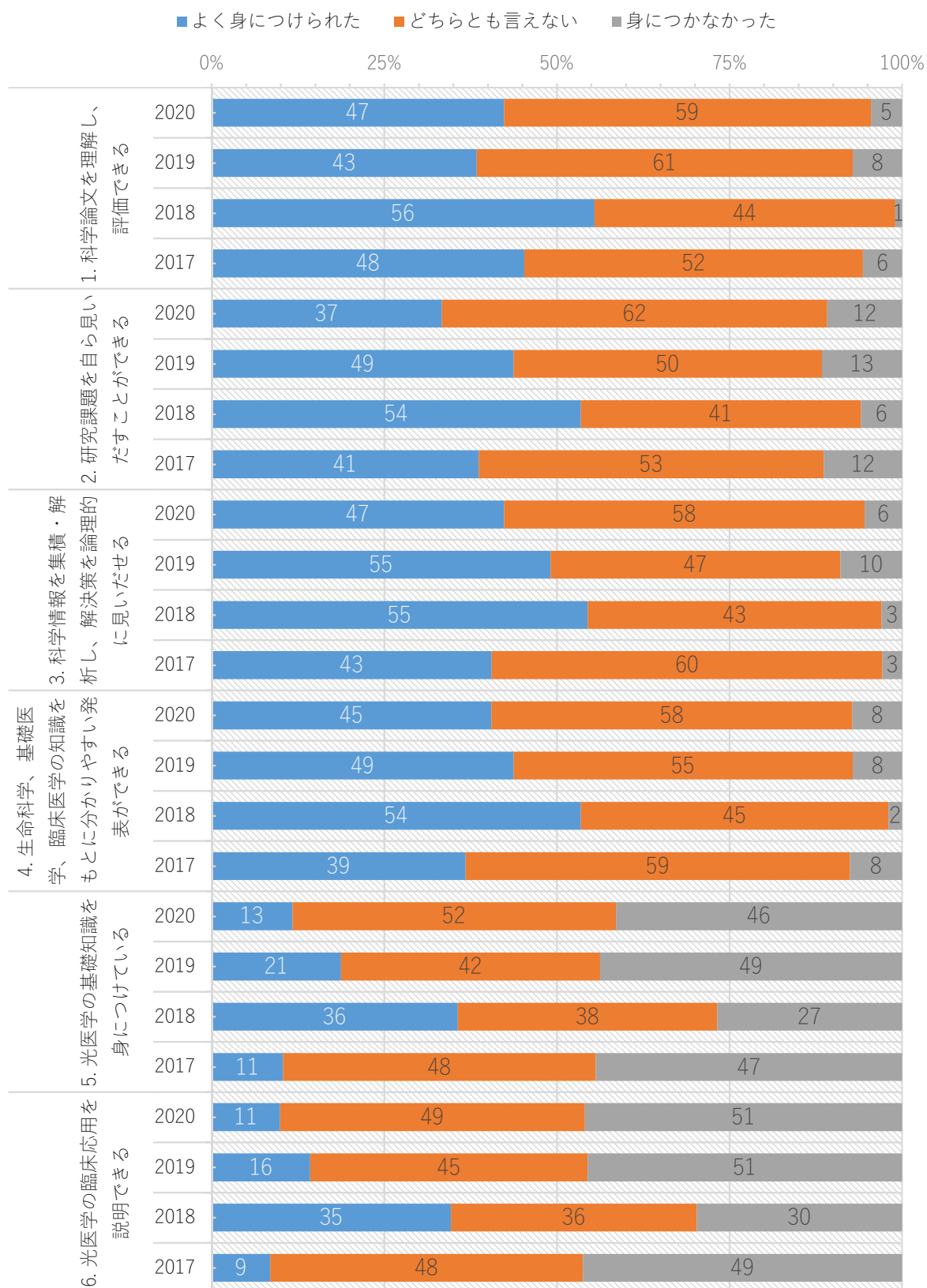
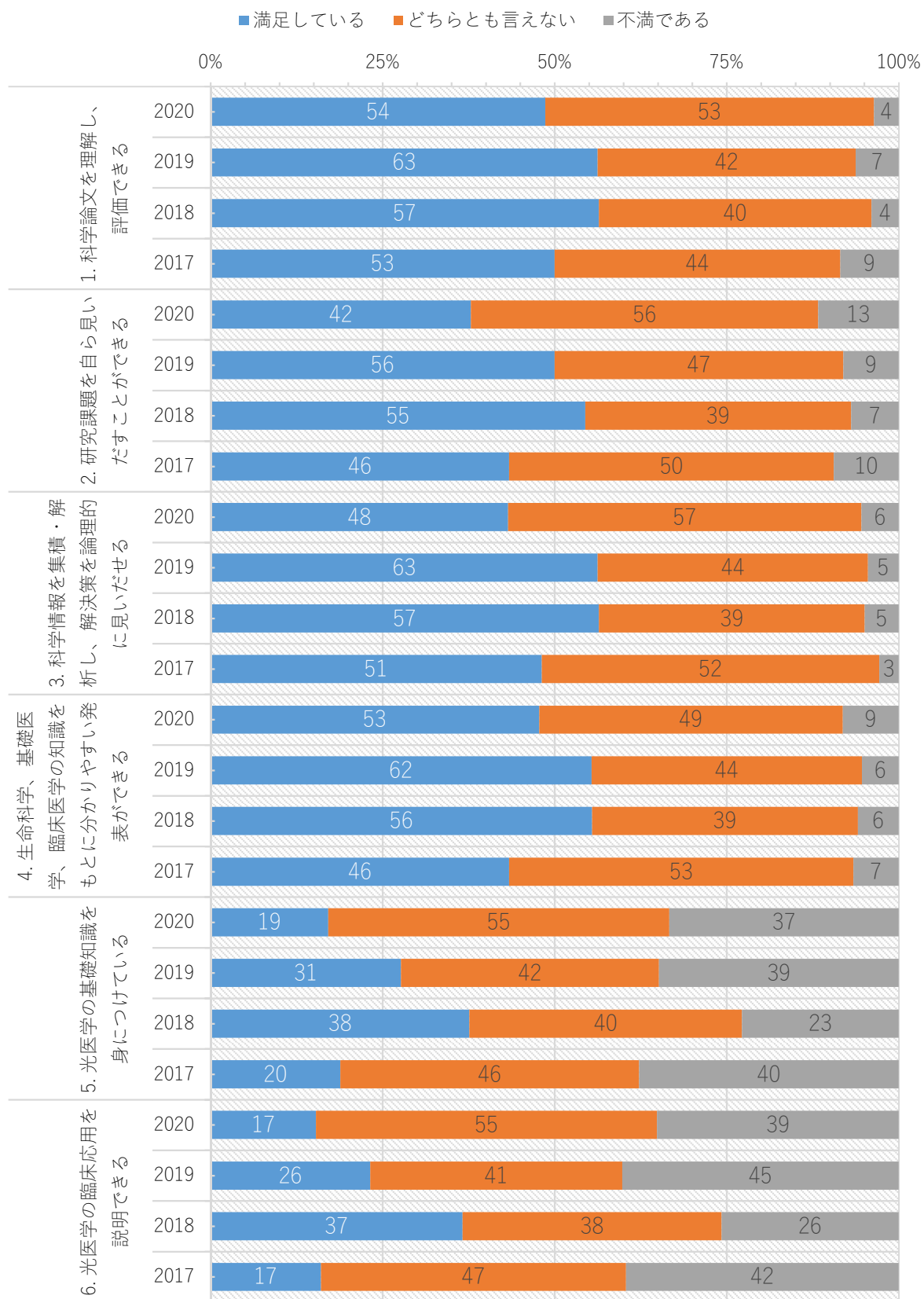


図 4 - 1 科学的探究心（到達度） 4 か年比較



回答者数 2020 年度：111 / 2019 年度：112 / 2018 年度：101 / 2017 年度：106 人

図4-2 科学的探究心（満足度）3か年比較

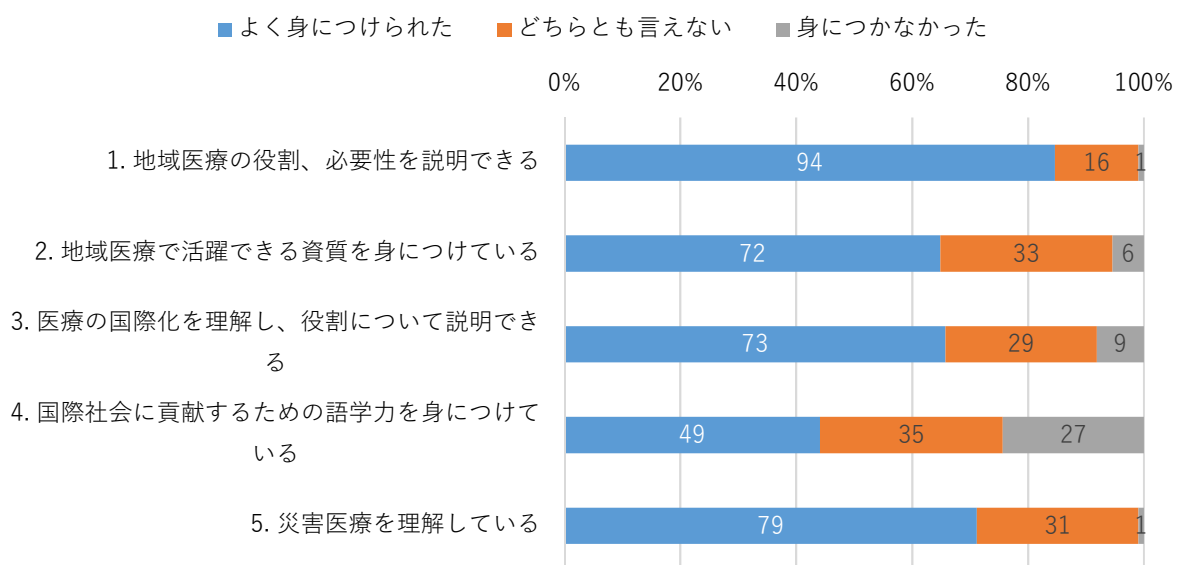


回答者数 2020 年度：111 / 2019 年度：112 / 2018 年度：101 / 2017 年度：106 人

5. 社会貢献力

「1. 地域医療の役割、必要性を説明できる」が最も高い。ただし、「2. 地域医療で活躍できる資質を身につけている」も含め、満足度と比較して到達度が前年までより大きく低下しており、コロナ禍などを経て学生の地域医療への意識や教育へのニーズが変化していることが示唆される。対して「4. 国際社会に貢献するための語学力を身につけている」が低い。4 か年で推移をみると、「4. 国際社会に〜」は 2018 年度のみ特出して高く（ただし、2018 年度はすべてのコンピテンシーで評価が高い傾向にある）、2019 年度、2020 年度と再度低下している（P16, 図 5-1、P17, 図 5-2）。

5. 社会貢献力（到達度）



5. 社会貢献力（満足度）

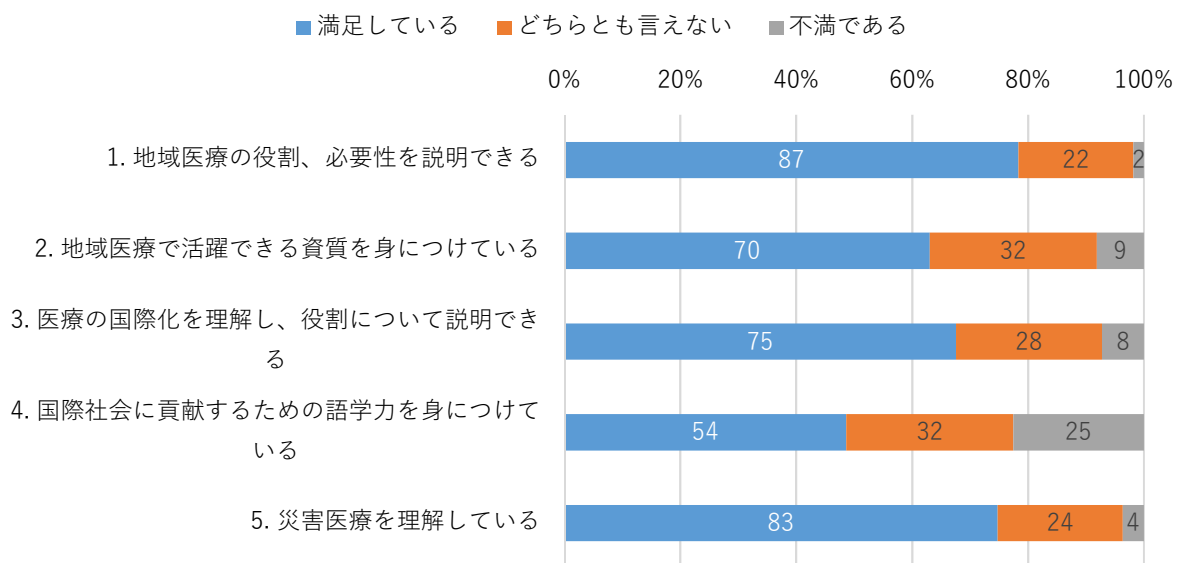
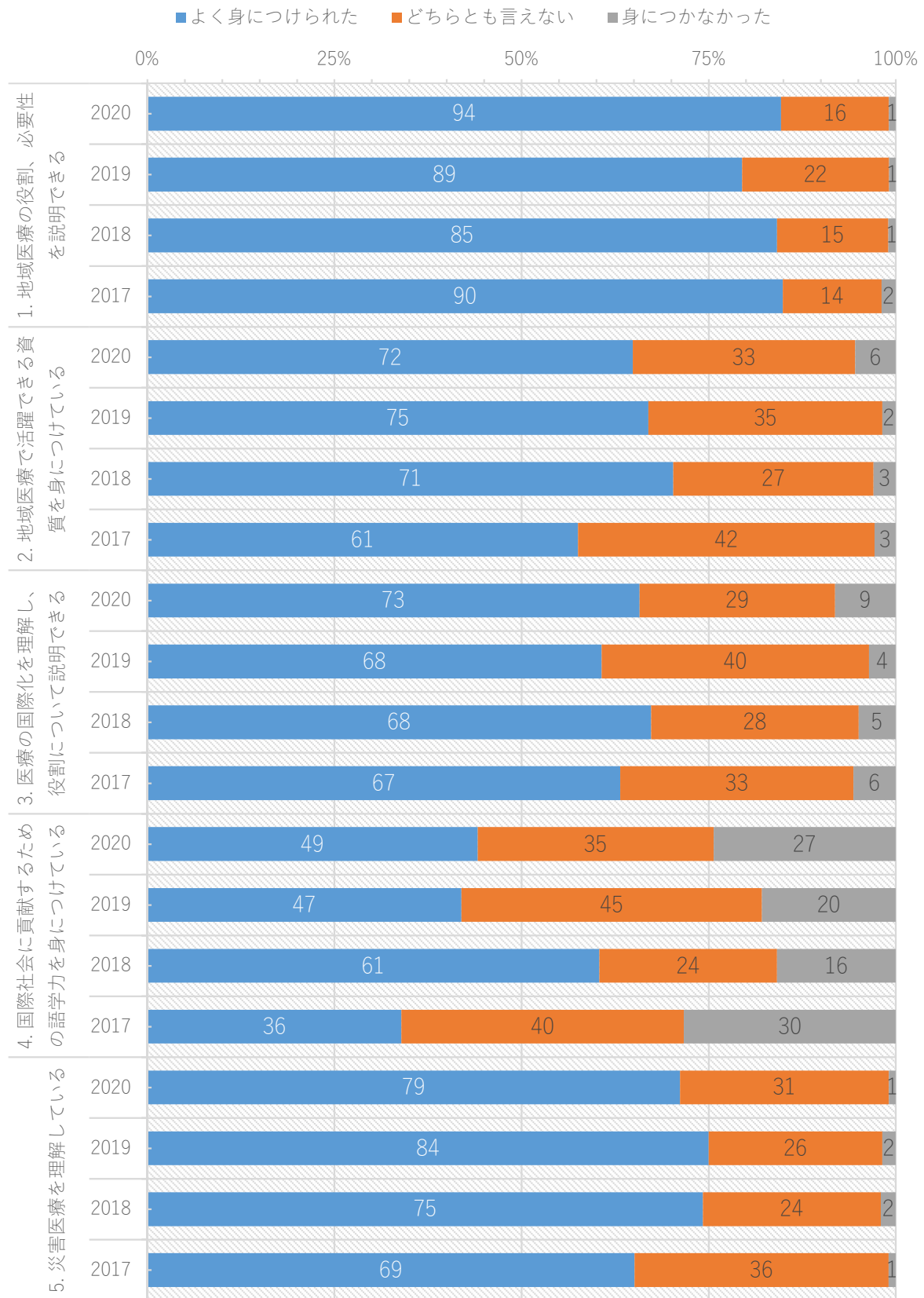
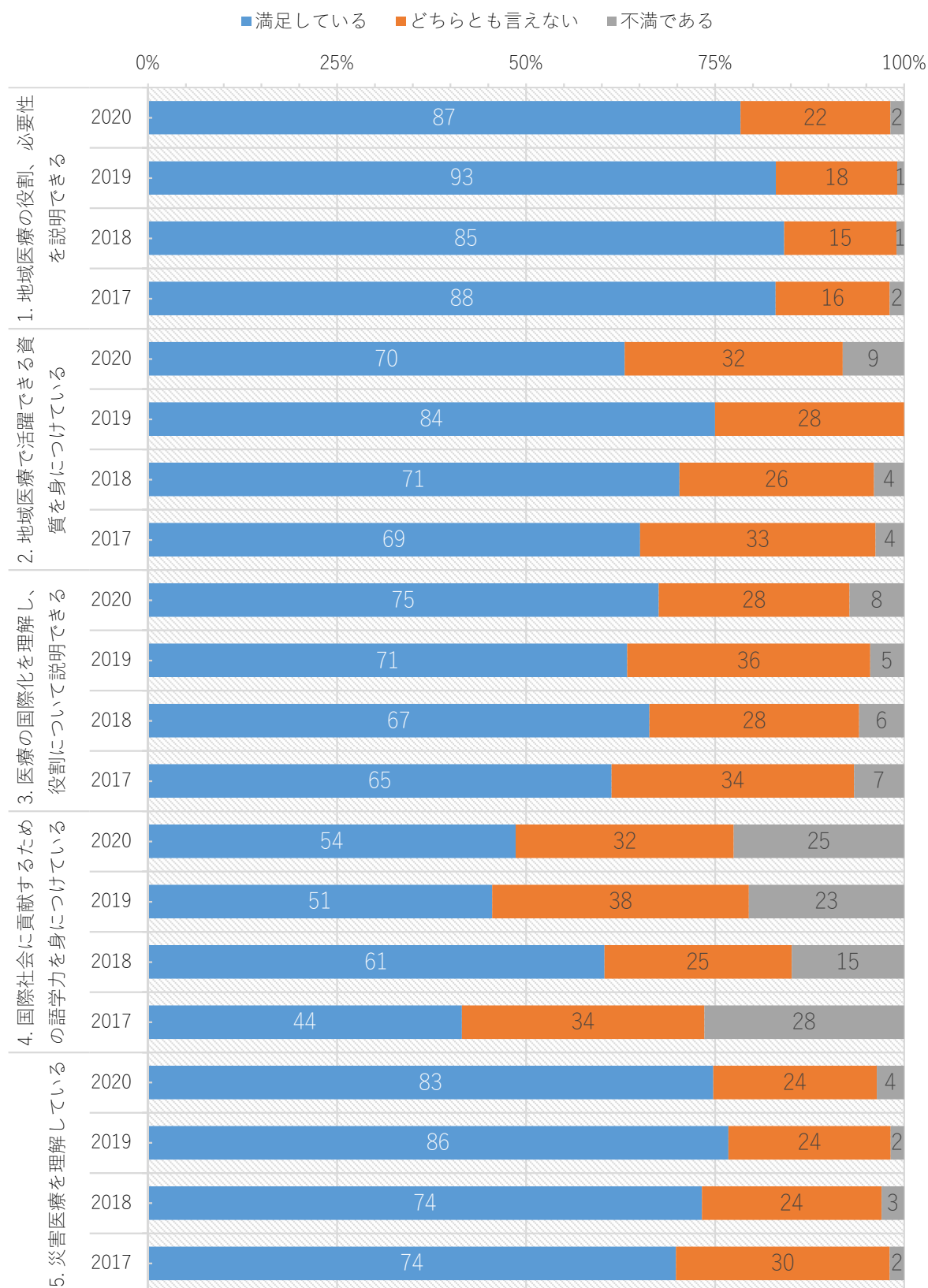


図 5 - 1 社会貢献力（到達度）4 か年比較



回答者数 2020 年度：111 / 2019 年度：112 / 2018 年度：101 / 2017 年度：106 人

図 5 - 2 社会貢献力（満足度）4 か年比較



回答者数 2020 年度：111 / 2019 年度：112 / 2018 年度：101 / 2017 年度：106 人